

TPPと農業と産業

先月の10月に開かれた「新成長戦略実現会議」で、菅首相が日本の命運に係わるTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加検討を唐突に表明した。しかしながら、原則として例外を認めない貿易自由化の協定であることから、コメをはじめ国内の農業・漁業は壊滅的な打撃を受けるとして反発する

平成の黒船

声が当然に上がる。配慮を欠く表明に「覚悟」の無さが明白です。

TPPは、例外品目がなく100%自由化を実現する質の高いFTA（自由貿易協定）です。物品の貿易、サービス貿易、政府調達、知的財産権協力など投資を除く幅広い分野を対象とする包括的な協定であり、労働と環境も補完協定として協力が規定されています。即ちこれまで国内においても経済構造が変わることで

すでに地殻変動が始まっているのです。また平成の黒船？と指摘する人もいます。このTPPに日本が乗り遅れたら、日本は農業以外の、おそらくほぼ全産業レベルで、取り返しの付かないことになるのではないのでしょうか。歴史的にも江戸時代・過去には戻りません。

当初から参加に賛成すべきです。今回の横浜のAPEC（アジア太平洋経済協力会議）で、韓国も参加の意向ですし、今後中国

のサプライズ参加もある。韓国が参加して日本が参加しなければ自動車産業をはじめわが国の産業は致命的なダメージを受けるでしょう。来年の米国で正式発足といいますが、それまでに日本が協議に参加しなければわが国の主張は全く無視されます。日本の国益抜きの方向で様々な大枠が決まってしまうことに違いありません。そうした大枠が決まってしまうから参加で喜ぶのは日本以外、国益最優先の参加国でしょう。そうなるからでの参加は全く遅いのです。米国は、国内事情が複雑な日本は最初から入らなくなってしまうというのが本音という解説もあります。自分の国益が最優先です。日本を支配していれば実に美味しいのです。まさに世界からつきつけられた黒船か、第二の朝鮮特需です。日本だけが世界から遅れることは、後世に大きな悔いを残すことになるのだが。

日本経団連の米倉弘昌会長は8日の定例記者会見で、TPPに関連して「人の流れが変わり、必ずや労働力や需要を作り出す消費人口の減少という影響を受ける」と指摘した。その上で「補強のためには移民しかない。移民法がないのは先進国の中で日本だけ」と言われており、長期的な安定のために日本に忠誠を誓う移住者をどんどん奨励すべきだ」との持論を主張。

世界の中で日本はどうする。鉄腕アトムを生んだ日本の、歴史と文化はどうなるのでしょうか。

平成の2.26事件

「亡国のイージス」小説映画の主人公は仙石です。海上保安官の尖閣映像流出事件が起きたが、特に不思議ではない。「これを機密とするのであれば時の政府が自身の都合の悪いことはすべて機密にしてしまえば、何をやるでも許されるのではないだろうか」と直筆メモを新聞記者に残している。

政権の密約は常識です。1・2ヶ月は、事件の対応に忙殺、米におすがりして何とか大丈夫でしょう。しかし、どうしても空き「菅」氏では禍転じて福にはできない。

歴史の分水嶺

百年に一度の転換点、異常気象、不況、我が国は、今、「歴史の分水嶺（れい）」とも呼ぶべき大きな変化に直面している。

世界経済は、新興国経済が急激に発展する一方、我が国の相対的地位は趨（すう）勢的に低下するという構造的な変化が進んでいる。

日本の隣国である韓国の選択状況を見れば、我が国の方向がよく見える。経済政策、税制（納税者憲章）や消費税でも、日本に常に先行しています。

韓国とは竹島の領土問題がありますが、中国やロシアの領土問題とは質が違います。喫緊の問題でしょうか。売国小泉対口政策から、情報戦の敗北が続く。世論誘導・支配の具に「もっていかれる」のです。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2010年11月15日(月) NO.155
地域から明るい未来を作ろう